

新しい学問と教育

名前 _____

_____ 月 _____ 日

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

江戸時代の中ごろから、どのような学問や教育が広がっただろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 国学と蘭学

新しい学問

2 「古事記伝」を書いて国学を大成した。

4 前野良沢らと「解体新書」を出版した医者。

6 全国を歩いて測量し、正確な日本地図をつくった。

古事記や万葉集などの古典を研究し、仏教や儒教が伝わる前の日本人の考え方を明らかにしようとする ¹ 国学 がおこった。 ² 本居宣長 は「古事記伝」を書いて国学を大成した。国学は天皇を尊ぶ考えと結びつき、のちに幕末の尊王攘夷運動に影響を与えた。

吉宗がキリスト教に関係のない洋書の輸入を認めたことから、オランダ語で西洋の学問を学ぶ ³ 蘭学 がさかんになった。医者 ⁴ 杉田玄白 や前野良沢らは、オランダ語の解剖書を苦心して翻訳し、1774年に「 ⁵ 解体新書 」を出版した。これにより、人体のしくみを正確に知ることができるようになった。

蘭学は、地図づくりにも生かされた。 ⁶ 伊能忠敬 は50歳で江戸に出て天文学や測量を学び、55歳から約17年かけて全国の海岸線などを歩いて測量した。測量はやがて幕府の事業として行われ、その成果をもとに、忠敬の死後、実際の形にきわめて近い日本地図が完成した。

2 寺子屋と藩校

教育の広がり

7 町や村で、庶民の子どもに読み・書き・そろばんを教えた所。

9 藩が武士の子どもを教育するためにつくった学校。

商業が発達すると、文字を読み書きし、計算する力が庶民にも必要になった。そのため町や村には ⁷ 寺子屋 が開かれ、子どもたちが ⁸ 読み・書き・そろばん など、くらしや仕事に役立つことを学んだ。往来物とよばれる教科書が使われ、教えたのは僧や武士、医者、町人などだった。寺子屋は江戸時代の後半に全国で急にふえた。

諸藩は、藩の政治を担う人材を育てるため ⁹ 藩校 をつくり、武士の子どもに ¹⁰ 儒学 や武芸を学ばせた。会津藩の日新館や長州藩(萩藩)の明倫館などが知られ、蘭学や医学を教える藩校も現れた。寺子屋や藩校で学んだ人々が多かったことは、明治時代に近代化を進める土台にもなった。

学校	学んだ人	おもな内容
⁷ <u>寺子屋</u>	町や村の庶民の子ども	読み・書き・そろばん
⁹ <u>藩校</u>	武士の子ども	儒学・武芸

できた / 10